



Colors, Future!  
いろいろって、未来。  
川崎市

COLORS  
FUTURE!  
ACTIONS  
KAWASAKI 100th



KAWASAKI  
SDGs 

川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

# 川崎市の脱炭素化の取組

< 3R推進講演会 >

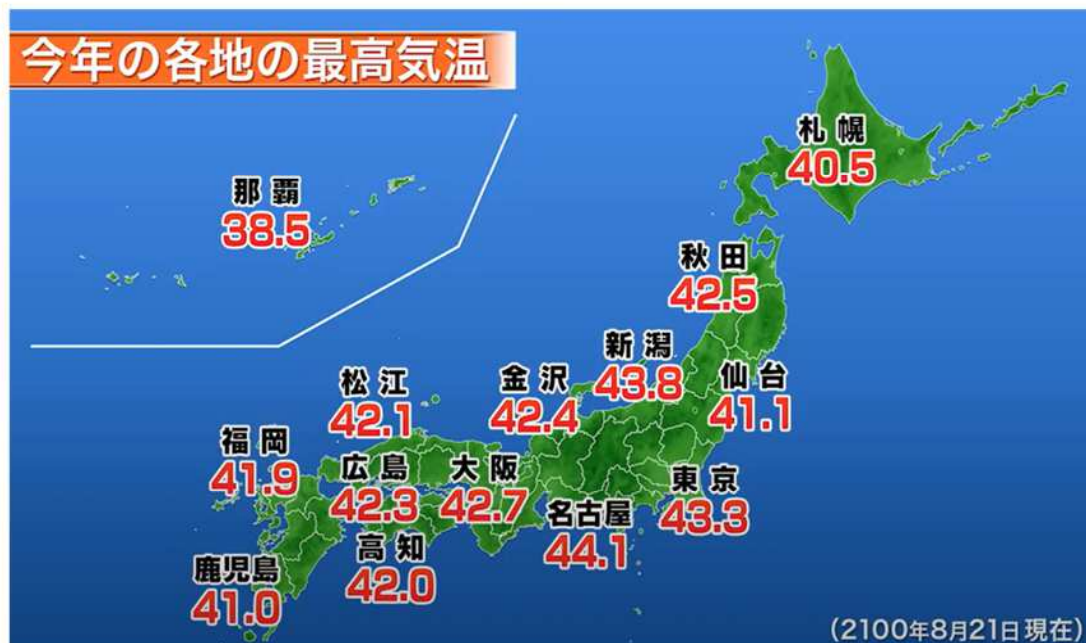
令和5年10月12日

川崎市 環境局 脱炭素戦略推進室



# 1-(1) 危機的な気候変動

- 気候災害は**50年**で**5倍**に増加
- このままでは2100年夏の最高気温が**日本の多くの地域で40°Cを超える**可能性



出典：環境省 COOL CHOICEのHP

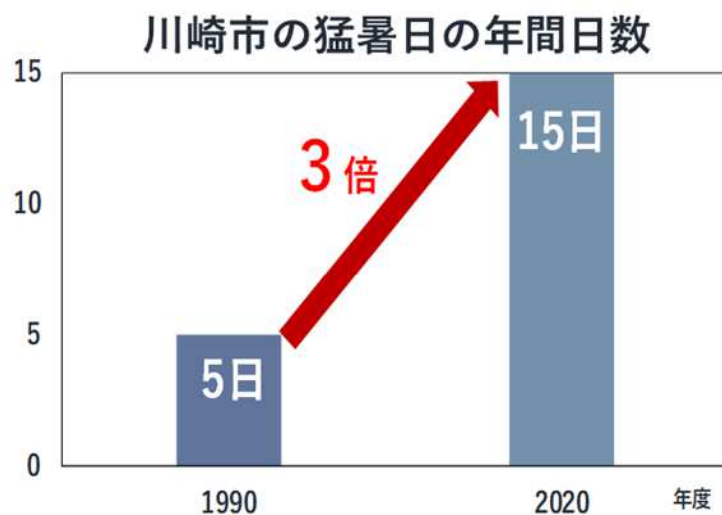
**熱中症・感染症、生態系への影響、農作物への影響、大雨・台風などの災害の大型化**など、深刻な被害を引き起こすリスクが増大



## 1-(2) 川崎市も例外ではありません

- 日本の年平均気温は上昇傾向。**川崎市の猛暑日も3倍**に増加
- **令和元年東日本台風**では広域的に被害が発生※  
川崎市も、死者1名、全半壊約1000棟 床上床下浸水約1,700棟などの被害。

※ 国の報告書によれば、**令和元年東日本台風は、気候変動により大型化のリスクが高まった**とされている。



# 1-(3) パリ協定とIPCC「1.5°C特別報告」

- 産業革命以前と比べて「**1.5°C上昇**」は、地球温暖化の影響が人類に深刻な影響を与えるかどうかの「**境界**」とされている

- <sup>※1</sup>パリ協定の世界全体の長期目標では・・・

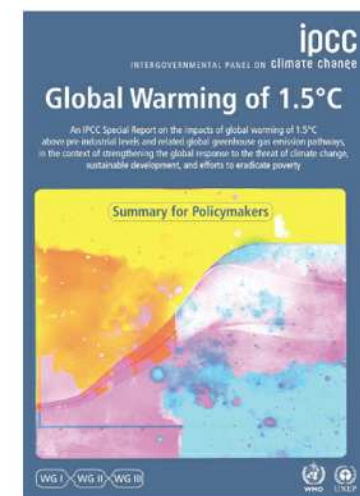
- ▶ 世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて**2°C**より十分**低く**抑え、さらに**1.5°C以内に向けて努力**をする

- <sup>※2</sup>IPCC「1.5°C特別報告書」によれば・・・

- ▶ 気温上昇を1.5°Cに抑えるためには世界のCO<sub>2</sub>排出量を**2050年前後**には**実質ゼロ**に抑える必要がある  
現在の進行速度では2030～2050年に1.5°Cに達する

※1 パリ協定とは2020年以降の新たな温暖化対策の世界的な枠組みのこと。新しい枠組みは、京都議定書以来

※2 IPCCとは国連気候変動に関する政府間パネル(組織)のこと

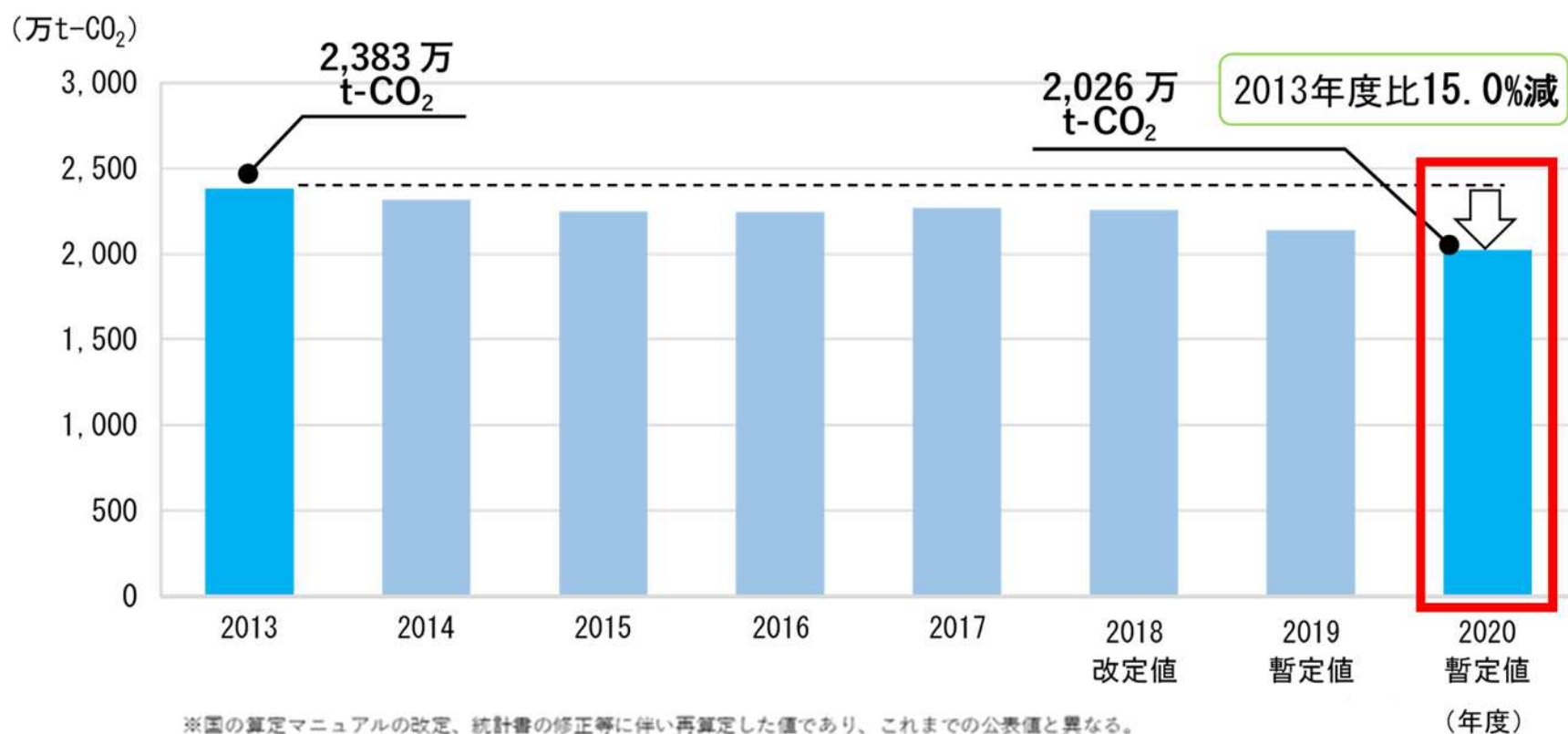


## 1-(4) 国の法改正と目標設定等

- 令和3（2021）年6月、地球温暖化対策推進法が改正。  
2050年カーボンニュートラルを**すべての国民に課す課題**として**法定化**
- 令和3（2021）年10月、地球温暖化対策計画を策定。  
我が国は、2030年度に温室効果ガスを2013年度比**▲46%削減**を目指す。
- 令和3（2021）年10月、第6次エネルギー基本計画を策定。  
2030年において**新築戸建住宅の6割**に太陽光発電設備の設置を目指す。

## 1-(5) 市域の温室効果ガス排出量の状況①

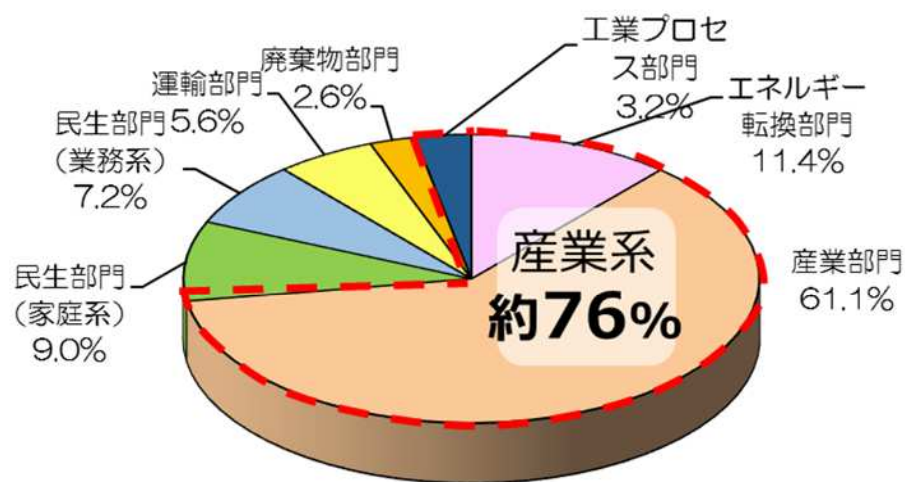
○2020年度の川崎市の温室効果ガス排出量（暫定値）は**2,026万t-CO<sub>2</sub>**で、2013年度と比較して**15.0%削減**



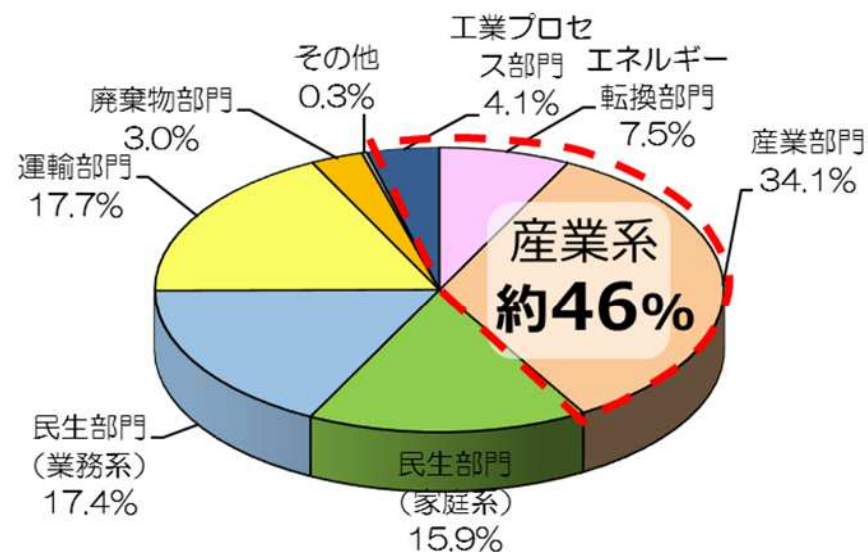
## 1-(6) 市域の温室効果ガス排出量の状況②

- 2020年度（暫定値）のCO<sub>2</sub>排出量の部門別構成比をみると、**産業系**（産業、工業プロセス、エネルギー転換）が**全体の約76%**を占めており、全国平均と比べて、非常に大きい

市内の二酸化炭素排出量の  
部門別構成比（2020年度暫定値）



全国の二酸化炭素排出量の  
部門別構成比（2020年度）





# 1-(7) 市域の温室効果ガス排出量の状況③

- 川崎市は**政令市で最も多く**の温室効果ガスを排出  
 カーボンニュートラルの対応が遅れると市内の**環境**と**経済**に大きな打撃

順位	都市名	CO <sub>2</sub> 等排出総量 (万t-CO <sub>2</sub> )	(市内人口 (人))
1	川崎市	2,026	1,538,262人
2	横浜市	1,821	3,740,172
3	大阪市	1,736	2,725,006
4	北九州市	1,708	945,595
5	千葉市	1,575	977,247
6	名古屋市	1,393	2,320,361
7	札幌市	1,155	1,965,940
8	堺市	930	831,017
9	仙台市	826	1,088,669
10	神戸市	810	1,527,407

順位	都市名	CO <sub>2</sub> 等排出総量 (万t-CO <sub>2</sub> )	(市内人口 (人))
11	広島市	776	1,199,242
12	新潟市	758	800,582
13	福岡市	643	1,579,450
14	京都市	638	1,468,980
15	岡山市	621	721,329
16	浜松市	529	794,025
17	さいたま市	506	1,295,607
18	静岡市	505	695,416
19	熊本市	393	739,556
20	相模原市	392	723,012

表 川崎市以外はR2.12.17時点 各都市HP、電話ヒアリング 調査結果 (川崎市)



## 2-(1) 川崎市の温室効果ガス削減目標

### Point 2 2030年度の削減目標等の設定

2050年の脱炭素社会の実現  
のために達成すべき目標

#### 市域目標

##### 市域全体

※温室効果ガス等削減目標

2030年度までに**▲50%削減** (2013年度比)

国の目標より高水準!

(国: ▲46%削減  
(2013年度比))

民生系目標 2030年度までに**▲45%以上削減** (2013年度比)

(民生家庭・民生業務)

産業系目標 2030年度までに**▲50%以上削減** (2013年度比)

(産業・エネルギー転換・工業プロセス)

#### 市役所目標

市役所目標 2030年度までに**▲50%以上削減** (2013年度比)






(市公共施設全体)

#### 再エネ目標

再エネ目標 2030年度までに**33万kW以上導入**

(市域全体、2019年度実績20万kW)

## 2-(2) 重点事業（5大プロジェクト）について②

No.	プロジェクト名	主な取組
PJ1 再エネ 	地域エネルギー会社を中核とした新たなプラットフォーム設立による地域の再エネ普及促進PJ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>地域エネルギー会社を中核</b>とした新たなプラットフォームの設立</li> </ul>
PJ2 産業系 	川崎臨海部のカーボンニュートラル化・市内産業のグリーンイノベーション推進PJ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>川崎カーボンニュートラルコンビナート構想</b>に基づく取組推進</li> <li>・ 事業者の新たな評価・支援制度の検討</li> </ul>
PJ3 民生系 	市民・事業者の行動変容・再エネ普及等促進PJ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>脱炭素先行地域</b>における取組推進</li> <li>・ <b>再エネ導入に係る義務制度</b>の検討</li> </ul>
PJ4 交通系 	交通環境の脱炭素化に向けた次世代自動車等促進PJ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>EV/FCVステーション拡充</b>に向けた優遇措置等の検討</li> </ul>
PJ5 市役所 	市公共施設の再エネ100%電力導入等の公共施設脱炭素化PJ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2030年度までに全ての市公共施設への<b>再エネ100%電力の導入</b></li> </ul>

## 3-(1) 川崎市地球温暖化対策推進条例の改正概要

### ○ 川崎市地球温暖化対策推進条例の主な改正事項

**改正 1** 条文の全面的な見直し（脱炭素社会の実現を旨とした条例へ）

**改正 2** 建築物の再エネ義務に関する制度（新たな4つの制度）の創設

**改正 3** 事業活動の脱炭素化計画書・報告書制度の創設

市の温対条例を**全面改正し、5つの制度**を創設



## 3-(2) 川崎市温対条例に規定する新たな5つの制度

### 民生系取組

■ 総称 建築物太陽光発電設備等総合促進事業

制度1 特定建築物太陽光発電設備等導入制度

制度2 特定建築事業者太陽光発電設備導入制度

制度3 建築士太陽光発電設備説明制度

制度4 建築物太陽光発電設備誘導支援制度

いわゆる  
義務制度

### 産業系取組

■ 事業活動脱炭素化取組計画書・報告書制度

制度5 事業活動脱炭素化取組計画書・報告書制度

報告義務

## 3-(3) 条例改正後のスケジュール

○ 下記のスケジュールを目指す

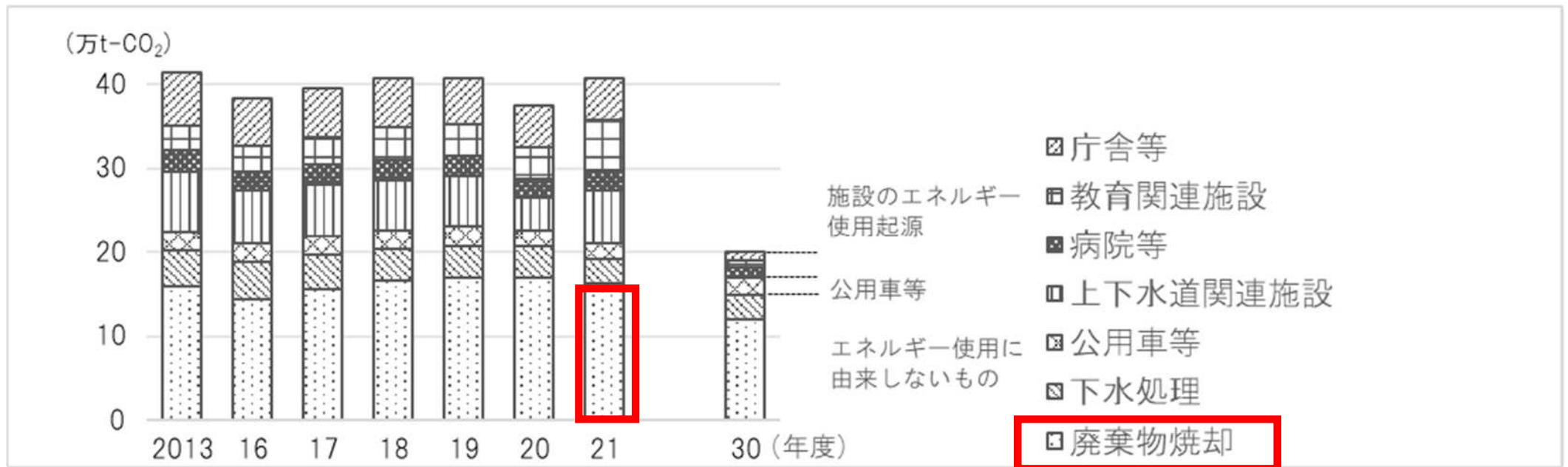
令和5年3月末 : **条例の全面的改正**、下記制度以外の施行

令和6年4月施行 : **制度3** 建築士太陽光発電設備説明制度  
: **制度5** 事業活動脱炭素化取組計画書・報告書制度

令和7年4月施行 : **制度1** 特定建築物太陽光発電設備等導入制度  
: **制度2** 特定建築事業者太陽光発電設備導入制度

## 4 市役所の温室効果ガスの排出

PJ5 関連



- 市役所の排出量の約4割が廃棄物焼却
- これは主に廃プラスチックの焼却によるもの
- しっかり分別して温室効果ガスの排出を減らす必要



## 5 脱炭素モデル地区

### 「脱炭素アクションみぞのくち」①

PJ3 関連



#### (1) 脱炭素アクションみぞのくちとは？

- 高津区溝口周辺地域は様々な脱炭素に資する取組が展開
- 事業者・団体などで**脱炭素アクションみぞのくち推進会議**を組織  
(R5.10現在 48会員)
- こうした取組を通して、**市民一人ひとりに実感してもらい、脱炭素型のライフスタイル**への転換を目指す
- 令和4年4月、国の**脱炭素先行地域**に選定され、太陽光発電等の導入を加速
- みぞのくちを脱炭素エリアとして認識してもらえるよう**ブランド化**を図っているところ

# 5 脱炭素モデル地区 「脱炭素アクションみぞのくち」②

PJ3 関連



さまざまな脱炭素アクションがみぞのくちで広がっています！

※掲載内容は2023年2月現在のものです

**公共施設の電気を再生可能エネルギー100%に！**

高津区役所、橋出張所、高津市民館橋分館、高津図書館では、再生可能エネルギー100%の電気を使用しています。施設内のLED化を進めて省エネに取り組んでいます。

**マイボトルを持ち歩こう**

マイボトルの利用促進のため、高津区役所などに給水スポットが設置されています。マイボトルを活用することで、ペットボトルの消費を減らし、お財布にも優しくエコに取り組めます。

**シェアリングサービスが広がっています**

多くの利用者で道具を「シェア」するサービスは、無駄づかいの防止やごみを減らすことにつながります。エコな移動手段であるシェアサイクルや、急な用の際に助かる車のシェアサービスなどが広がっています。

**電車はクリーンな移動手段**

溝の口駅を通る田圃都市線をはじめ、東急線は全線が再生可能エネルギー100%の電力で運行しています。また、武蔵溝ノ口駅を通るJR南武線では、CO<sub>2</sub>を出さないエネルギー「水素」で走る鉄道車両の試験走行が行われています。

**商業施設の再生可能エネルギー100%化も進んでいます**

マルイファミリー溝口及びノクティブラザ全体で、地球にやさしい再生可能エネルギーを100%使用して施設を営業しています。このほかにも、省エネ・リサイクルなど様々な環境にやさしい取組が行われています！

**水素で走る自動車！**

CO<sub>2</sub>を出さない燃料である水素を使って走る燃料電池自動車（FCV）。橋分館には、市内3か所しかない水素ステーションがあり、FCVに水素を充填しています。また、高津区役所ではFCVを公用車として活用しています。

**環境にやさしい行動を楽しくするアプリ！**

Green CarbOn Club  
富士通株式会社と共同で、環境アプリを開発しました。記事を読んだり環境イベントに参加するなどのエコな行動でポイントを貯めて、エコな商品・サービスと交換できます！

**H<sub>2</sub> 駅でも水素エネルギーを活用しています**

JRの「エコスタ」モデル駅である武蔵溝ノ口駅では自立型水素エネルギーシステムを導入し、駅舎の屋根に設置した太陽光パネルの電力から水素を製造してタンクに補充しています。補充した水素を利用して発電した電気を、夜間中災害時に活用しています。

**イベントや動画などで情報発信中！**

イベント、HPや動画などで、事業者・団体の脱炭素アクションをPRしています。高津区内の子どもたちが「キッズYouTuber」となって、企業・団体の取組を紹介する動画も作りました。

**ごみを利用して発電します**

2023年に竣工予定の橋処理センターでは、ごみの燃焼時の熱を利用してCO<sub>2</sub>を出さない電気を発電します。場内で使用する電力のほか、一般家庭13,000世帯相当分の電力をまかなうことができます。

# 5 脱炭素モデル地区 「脱炭素アクションみぞのくち」③

PJ3 関連



## 地域人材が学びながら情報発信

- 「脱炭素アクションみぞのくち」の活動の様子を地域の人材が楽しく学びながら情報発信
- 様々な世代・分野で活躍する「インターン」22名が企業へ訪問・取材をしたりイベントに参加しながら、それぞれの目線から気軽に読んでいただける記事や活動レポートをWEBサイト上とSNSで紹介

フォローをお願いします

- YouTube(脱炭素アクションみぞのくち: @carbon0\_mizonokuchi)  
[https://www.youtube.com/@carbon0\\_mizonokuchi](https://www.youtube.com/@carbon0_mizonokuchi)
- Instagram(脱炭素アクションみぞのくち: @dam\_mizonokuchi)  
[https://www.instagram.com/dam\\_mizonokuchi/](https://www.instagram.com/dam_mizonokuchi/)

地球温暖化防止への取組「脱炭素アクションみぞのくち」の新プロジェクトが始動！  
～地元人材が SNS などで情報発信～

川崎市は、7月12日(水)から、2050年の脱炭素社会の実現に向けた取組「脱炭素アクションみぞのくち」の一環として地域人材を「インターン」に任命し、様々な脱炭素の取組を発信する「まるっとサステナ CAMP」を開始します。併せて、脱炭素アクションみぞのくちについてもっと知っていただくために、SNS アカウントの新設・運用を開始します。川崎市高津区溝口周辺地域における取組が、より市民にとって身近に感じられるものとなることを目指した新たなプロジェクトを開始します。



↑高津区溝口周辺地域で、脱炭素に資する取組を集中的に実施します

1 新プロジェクトの詳細に関して  
(1)地域人材が学びながら情報発信「まるっとサステナ CAMP」の開始  
「脱炭素アクションみぞのくち」の活動の様子を地域の人材が楽しく学びながら情報発信する「まるっとサステナ CAMP」を開始します。様々な世代・分野で活躍する「インターン」22名が企業へ訪問・取材をしたイベントに参加しながら、それぞれの目線から気軽に読んでいただける記事や活動レポートを WEB サイト上と SNS で紹介します。  
「まるっとサステナ CAMP」の名称は、地域全体で「まるっと」脱炭素やサステナブルにつながることに取り組んでいることを気軽に実感してもらおうという思いを込め、設定しました。  
なお、環境や PR などの分野において知見のあるメンター3名がインターン生の活動に伴走します。



### 【インターン生の紹介】



深澤美乃(武蔵大学) 高橋淳音(横浜国立大学) 田中悠太(高津高校) 本江 真(女子大学)  
他、高校生17人まで、計22名





川崎市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

## 御清聴ありがとうございました

### かわさきカーボンゼロ ロゴ

CO<sub>2</sub>排出実質ゼロを目指す

葉は環境への配慮をイメージ



2つの矢印は資源、エネルギー、炭素などの循環をイメージ

「かわさきカーボンゼロ」ロゴマークは、2050年CO<sub>2</sub>排出実質ゼロを表現したロゴマークです。

2050年の脱炭素社会の実現には、現状の取組の延長線上では難しく、一人ひとりが行動を起こすことにより、社会の行動変容を促し、脱炭素化の技術革新に繋げていくことが必要です。

川崎市はよりよい未来をつくるため、市民・事業者の皆さまと挑戦を続けてまいります。